

NAGOYA

UNIVERSITY

GLOBAL

ENVIRONMENTAL

LEADERS

PROGRAM

名古屋大学国際環境人材育成プログラム事務局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学環境総合館
URL●<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/nugelp/index.html>
TEL●052-789-5507 FAX●052-788-6205
E-mail●envleaders@urban.env.nagoya-u.ac.jp



名古屋大学
国際環境人材
育成プログラム

今、世界で何が起きているのだろうか—

経済、人口、資源

世界の人口は、現在75億人。2050年には100億人超へ。
新興国の経済成長と人口増大にともない、
石油、天然ガス、レアメタル、そして食糧など、
資源の需要は増加の一途をたどっている。
一歩間違えば、資源争奪に突入しかねない世界。
そして、そのしわ寄せは貧困国に。

環境問題を解決するために不可欠なもの、
それは、人類の未来についてのビジョンを描き、
その実現に向かって行動する意志と能力を持つ 人材。
そして、彼らの斬新な発想が生み出す知恵、すな わち効果的な政策や技術。
21世紀、地球環境の時代を生きるわたしたちの 課題は、
世界の環境問題対策を担う環境リーダーの育 成である。

地球温暖化、 エネルギー、CO₂

気候変動による地球のさまざまな異変。
経済成長にともなうエネルギー消費量の急増。
これらを食い止めるには、有効な政策や技術を
世界中で総動員しなければならない。
排出量取引、CDM等の政策を導入し、
自然エネルギー利用や省エネのための技術を開発する。
50年先、100年先を見据えた、二酸化炭素(CO₂)排出の少ない
低炭素社会づくりへの挑戦が始まっている。

都市化、水、廃棄物 生物多様性

2030年には、世界人口の約7割が都市に住むことが予想される。
都市の水需要は激増し、生活排水による河川や海の汚染が進む。
都市で発生する廃棄物の増加は、公衆衛生への悪影響や自然破壊に直結する。
温暖化による海面上昇や干ばつなどのリスクも増大する中、
水資源の保全や、資源循環型社会の構築に真剣に取り組むべき時がきている。

われわれの生存基盤である生態系、種、遺伝子は、今、危機に瀕している。
一方で、遺伝資源の経済的価値に対する関心が高まり、
世界は生物資源獲得競争の様相を呈しつつある。
生物多様性の保全には、気候変動や水資源の問題など、さまざまな事象との
インターリンクエージ(相互連関性)に配慮した、総合的な取り組みが求められる。

問題解決を担う環境リーダーの育成 国際環境人材育成プログラム

名古屋大学では、2008年度より、文部科学省科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点形成」の支援を受けて、「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を実施しています。

このプログラムは、世界が直面するさまざまな環境問題に対して創造的な解決策を提案できる人材を育成することを目的とするものです。

環境問題に取り組む意欲を持ったアジア・アフリカ諸国等からの留学生および日本人学生を歓迎します。



名古屋大学総長
松尾 清一

国際的な環境リーダー育成のための特色ある教育プログラム

● 問題解決へのアプローチ	問題事象の理解, 対策技術の習得, 制度設計・政策運営能力の獲得を重視した体系的な教育を行います。
● 多様な専門領域の連携	学生は環境学研究科、工学研究科において専門的講義を受けるとともに、学生の関心分野に応じて、生命農学研究科、国際開発研究科等の講義も受けることができます。
● 学内外の協力	企業、NPO、海外の大学、国際機関等との連携によりグローバル研究インターンシップを実施。高度な専門知識だけでなく、実務のノウハウも修得します。
● 国際的に活躍する人材の育成	講義やセミナーは英語で。留学生と日本人学生が互いに啓発しあいながら学ぶことで、国際舞台での活躍に不可欠なコミュニケーション能力の向上を図ります。

対象学生

環境学研究科都市環境学専攻持続発展学コースと工学研究科土木工学専攻の博士課程前期・後期に入学する留学生および日本人学生から選抜します。

取得学位

修了生には、所定の学位(修士(環境学)、修士(工学)あるいは博士(環境学)、博士(工学))を授与。さらに、プログラムが指定する科目の単位を取得し、学位論文を英語で作成した修了生には、プログラム修了認定証(Certificate)を授与します。

履修カリキュラムの概要

博士前期課程

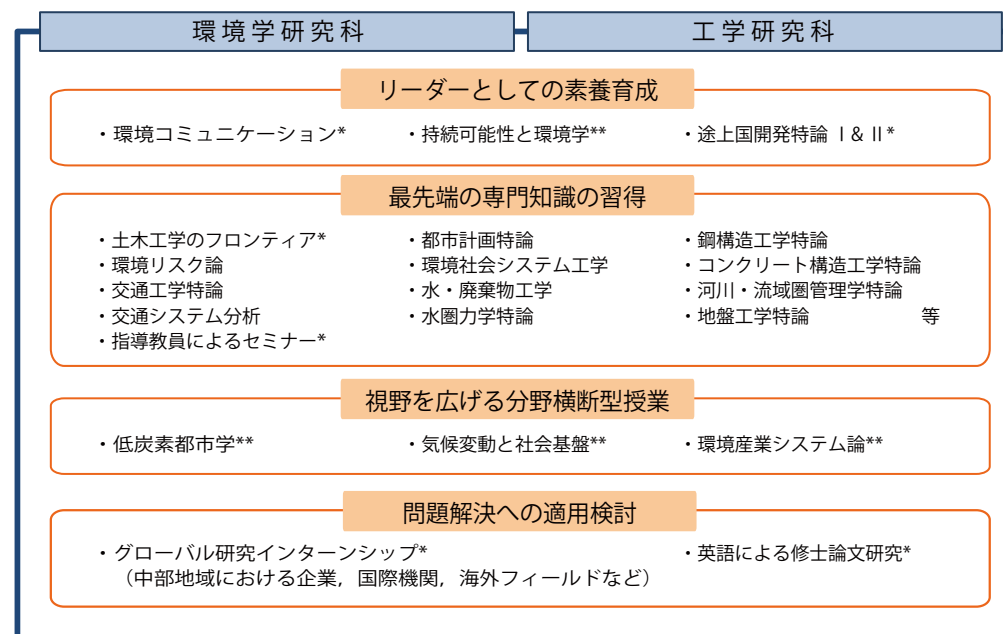
1年目	<p>選択分野を中心に専門知識を深めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境学研究科(都市環境学専攻)、工学研究科(土木工学専攻)において講義、セミナー等を履修します。 ● 地域の企業や自治体の専門家による実践的な講義を受けることができます。
2年目	<p>選択分野における専門知識をさらに深めるため、企業・自治体・国際機関等でグローバル研究インターンシップを行います。</p> <p>修士論文の作成 講義、セミナー等に加えて、世界が直面する問題の解決をめざして研究テーマを設定し、修士論文(英語)を作成します。論文作成の過程においては、企業や海外等のフィールドでの調査や情報収集を積極的に行います。</p>

スタディツアー

国内(1泊2日)、及び海外(1週間程度)のスタディツアーに参加することができます。

博士前期課程 履修モデル(例)

環境・土木工学に関する最先端の専門知識を習得すると同時に、災害や環境問題に対して創造的な解決方法を提案できる人材育成のための、英語対応の講義、セミナー、インターンシップが豊富に用意されています。学位取得要件である単位をすべて英語で取得することが可能です。



* : NUGELP必須科目

** : NUGELP選択科目

博士後期課程

環境学研究科大学院 博士後期課程「統合環境学特別コース」に準じたカリキュラムで更に専門的かつグローバルな視野を培ってまいります。

全学的連携および地域との協力による プログラムの推進

名古屋大学国際環境人材育成センター

名古屋大学は、国際舞台で活躍する環境リーダーの育成を全学的に推進するため、「名古屋大学国際環境人材育成センター」を設置しました。校内のさまざまな部局が連携協力し、外部専門家の参加も得て、環境人材育成のための体系的カリキュラムを構築し、教育環境を整えます。

環境学研究科や工学研究科等の関係研究科の教員や非常勤講師等のスタッフが協力して教育を担当します。



名古屋大学副総長
センター長
藤巻 朗

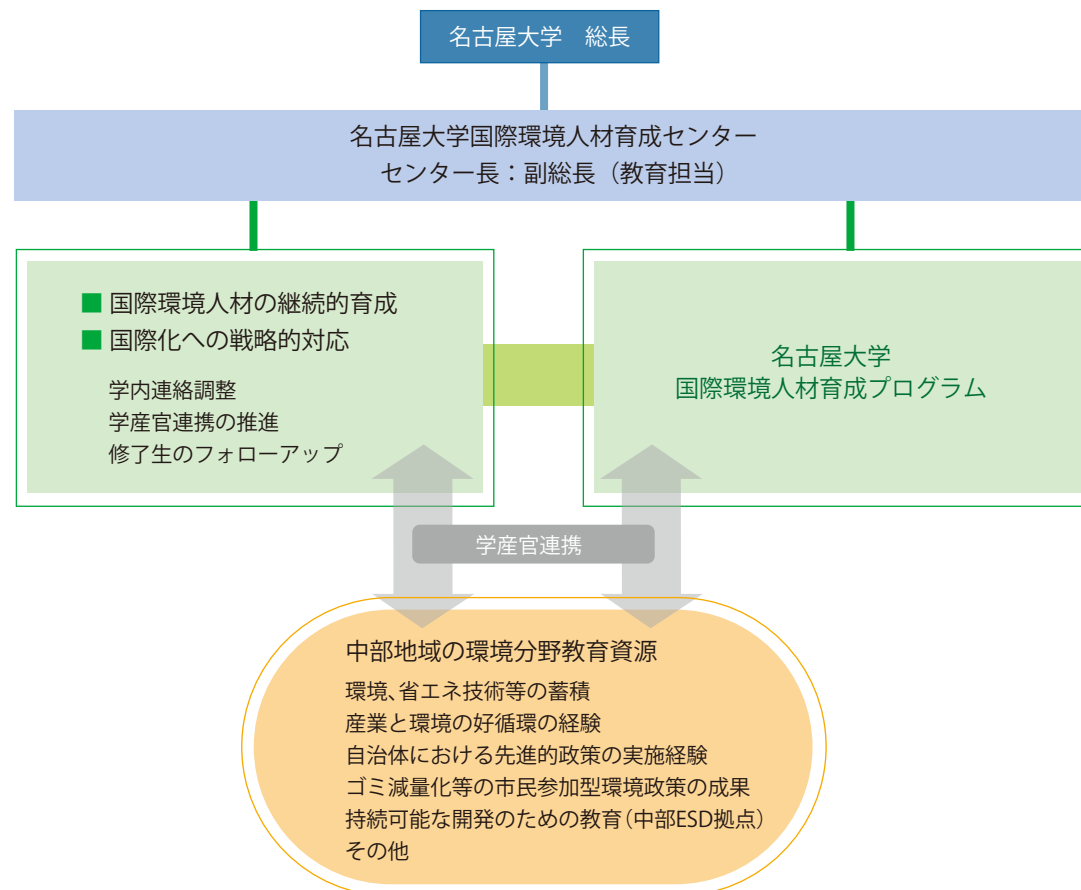


環境学研究科准教授
プログラムリーダー
井料 美帆

学産官の協力

国際的な環境人材育成を推進するため、学産官の協力体制を築きます。企業、自治体等の専門家が、実践に基づいた講義を行います。学生は、企業等で研修・インターンシップを行い、最先端の環境技術や環境行政を学びます。

名古屋大学国際環境人材育成センターおよびプログラム



担当教員

● 環境学研究科 都市環境学専攻（持続発展学コース）

谷川 寛樹 教授 環境システム工学	中村 英樹 教授 交通工学 交通計画 道路工学	加藤 博和 教授 [持続的共発展教育研究センター] 交通・環境計画 地域交通戦略	日比野 高士 教授 固体イオニクス材料 無機機能性物質
栗本 英和 教授 [教養教育院] プロセスシステム 情報マネジメント	森 保宏 教授 構造信頼性工学 リスクマネジメント	森川 高行 教授 [未来社会創造機構] 土木計画学 交通計画学	富田 孝史 教授 国土デザイン学 沿岸防災
岩松 将一 准教授 ナノカーボン（フラーレン） 包接化合物	ジノフエロ アナトリ 准教授 ナノ材料・ナノ技術 環境浄化	白川 博章 准教授 環境経済学	平山 修久 准教授 [減災連携研究センター] 衛生工学 災害環境マネジメント
飯塚 悟 准教授 建築・都市環境工学 数値流体力学	尾崎 文宣 准教授 建築・都市環境工学	井料 美帆 准教授 交通工学 交通計画学	長尾 征洋 講師 バイオマス利用 センシング技術

● 工学研究科 土木工学専攻

館石 和雄 教授 鋼構造 維持管理工学	中村 光 教授 コンクリート構造学 耐震工学	加藤 準治 教授 計算力学 最適設計	水谷 法美 教授 海岸工学 海洋工学
戸田 祐嗣 教授 河川工学 環境水理学	中野 正樹 教授 土質力学 地盤工学	野田 利弘 教授 [減災連携研究センター] 土質力学 地盤工学	山本 俊行 教授 [未来材料・システム研究所] 交通計画学
片山 新太 教授 [未来材料・システム研究所] 微生物生態工学 環境工学	林 希一郎 教授 [未来材料・システム研究所] エネルギー・環境政策 環境影響評価	判治 剛 准教授 鋼構造学 橋梁工学	
山本 佳士 准教授 コンクリート工学 構造工学	中村 友昭 准教授 海岸工学	椿 涼太 准教授 水理学 河川工学	
中井 健太郎 准教授 土質力学 地震防災工学	三輪 富生 准教授 [未来材料・システム研究所] 交通計画学	中村 晋一郎 准教授 国土デザイン 水文学	

